

生徒防災教育研修会（8月24日～26日）

生徒会の生徒5人およびPTA副会長とともに、防災教育の一環として東日本大震災の被災地である宮城県に行ってきました。

今回の研修会の目的は、被災地の状況を実感するとともに、自然災害に対する防災知識を学び、本県でも多大な被害が予想される南海トラフ地震に対して、視察で得た知識を学校防災教育につなげることです。

宮城県気仙沼では震災から5年たち瓦礫などは撤去されていましたが、道路の整備や建物の復旧などはまだ完全ではない様子でした。

初日、気仙沼で船具店を営んでおられるSさんから、津波の濁流にのまれながらも生き延びたお話を聞くことができました。

二日目、私たちと同じ水産海洋系高校である気仙沼向洋高校の畠山先生から震災時の教職員の対応を時系列で説明して頂き、日頃からの訓練の大切さを学びました。また、被災当時のままの旧気仙沼向洋高校も見学しました。

同日午後に石巻市にある宮城県水産高校を訪問し、阿部先生と同校の生徒会によるプレゼンを聞かせてもらったあと、生徒同士の交流もおこなうことができました。

本校の生徒会の5人は、地震災害についての知識を身につけるとともに常日頃の防災訓練の重要性が理解できました。



気仙沼の街並み



Sさん(船具店)からの聞き取り



気仙沼向洋高校での聞き取り



旧気仙沼向洋高校 見学



宮城県水産高校生徒会と